**平成２９年度第６回函館市障がい者計画策定推進委員会　会議録要旨**

* 日時　平成３０年１月１８日（木）　午後６時３０分～午後８時
* 場所　函館市役所８階　第２会議室
* 出席委員（１２名）

大山委員，河村委員，川村委員，熊谷委員，佐藤委員，島委員，相馬委員，永澤委員，比森委員，廣畑委員，松田委員，水野委員

* 事務局職員

藤田保健福祉部長

障がい保健福祉課　齋籐課長，加藤課長，渡邊主査，高瀬主査，菅原主査，板谷主査，柄澤主事

* 会議内容
1. 開会（午後６時３０分）
2. 協議事項
3. 第５期函館市障がい福祉計画の素案について

（佐藤会長）

　　それでは始めに，協議事項（１）第５期函館市障がい福祉計画の素案について，事務局

からの説明願う。

（渡邊主査）

　（「資料２　第５期函館市障がい福祉計画（たたき台）の修正点について」，を基に，「第

５期函館市障がい福祉計画の素案」を説明。）

（佐藤会長）

質問，意見はないか。

（廣畑委員）

　　１点目は，素案の２ページ，「２　計画の位置付け」では，「函館市地域福祉計画」の整合性のほか，より具体的な計画を含めた表現に変更しているが，「函館市介護保険事業計画」を加えるなら，その包括的な計画である，「老人福祉計画」を含めた方がいいのではないか。

２点目は，素案の１８ページ，「主な自由記載について」について，全３７１件と記載があるが，全３７９件ではなかったか。

また，同ページの自由記載の説明の後段「知ってもらうことにつながると考えられるもの１９件を抽出」の記載について，「知ってもらうことにつながると特に考えられるもの」か「知ってもらうことにつながると考えられるものの中から」という表現にすれば，誤解のない表現になるのではないか。

（渡邊主査）

　　１点目については，国の基本指針には「老人福祉計画」は含まれていないため，本市の

　計画にも含めていない。

　　２点目の件数については，３７１件で間違いない。また，自由記載の説明の表現については，検討したい。

（佐藤会長）

　　他に意見が無いようなので，今の部分について事務局で検討を加えるということで，当委員会として，この素案について了承することとする。今後は，市議会の意見やパブリックコメントによる市民の意見を参考にして，３月末には計画書ができあがる。

1. 第２次函館市障がい者基本計画の進捗状況について

（佐藤会長）

　続いて，協議事項の（２）「第２次函館市障がい者基本計画関連事業の主な取組状況等について」の１ページから１７ページまでを事務局から説明願いたい。

（渡邊主査）

　（資料１「第２次函館市障がい者基本計画関連事業の主な取組状況等について」の該当部

　分を説明。）

（佐藤会長）

質問，意見はないか。

（比森委員）

　　１１ページ「ひとり暮らし身体障害者等緊急通報システム」について，ペンダントの質が悪いため等による誤報の報告はないか。

（渡邉主査）

　　緊急通報システムについては，高齢福祉課が担当する高齢者の利用が大半を占めており，障がい者での利用は１０台と少なく，この部分での誤報の報告はない。

（比森委員）

　　移動中に鳴らさないつもりが，作動して警察や消防などの対応に時間を要したような話を聞いたことがある。

　　次に１６ページの生活安定施策の推進について，中核市として函館は観光ランキングでは上位だが，幸福度ランキングでは最下位と発表されている。市としてランキングを上げる努力をしているのか。

（齋藤課長）

　　高齢者の緊急通報システムに関しては，認知の関係で誤って押してしまったり，移動中に触れてしまうケースがあると聞いているが，障がい者の場合は年間１０台と限られた台数ということもあり適正に利用されている。

（藤田部長）

函館は，魅力ある街としては，高いランクをつけられているが，幸福度については，自殺率や生活保護受給率などの生活指標から低い評価となっている。一朝一夕でこれを高めるのは難しいが，少しでも上向くように各種施策に取り組んでいる。

（比森委員）

　　観光ランキングも大事だが，幸福度に関しては一番大事なことではないかと考えられるので，それをどのようにレベルアップしていくのか。

（藤田部長）

現在，関係部局が最大限に幸福度を高めるよう努めているところであるが，一方，各種アンケート調査では，函館は住みよい街であったり，市民が感じる幸せ感では，幸福度ランキングと違う結果が出ている。

保健福祉部としては，「市民が笑顔で，安心して，健やかに幸せを感じることができるくらしを実現する。」という使命をもって各種施策に取り組んでいる。

（廣畑委員）

　　１点目は，１ページの「障がい者総合相談窓口」について，積極的な研修会の参加により職員の資質向上を図る。とあるが，どのような研修に参加しているのか。

　　２点目は，８ページ「福祉コミュニティエリア整備事業」について，最近の進捗状況を教えて欲しい。

（菅原主査）

　　新たに配属された職員について，北海道で実施する相談支援研修に参加し窓口での各種相談に対応できる体制の確保に努めている。

（板谷主査）

道立精神保健福祉センター主催の依存症の研修をはじめ，思春期や各種困難事例対応についての研修に参加し，内部で情報共有しスキルアップを図っている。

（藤田部長）

　　「福祉コミュニティエリア整備事業」の進捗状況は，現在整備が予定されている福祉施設（特養，グループホーム，多目的コミュニティ施設）について２月から３月にかけて，それぞれの整備が終わり，４月以降に供用開始する。インターチェンジ側の宅地造成が終わり，既に十数戸分は販売済みで，何軒かは住宅の建設が始まっている。来年度には道路整備も全て終わる予定である。

（佐藤会長）

　　この整備に関して，障がい者団体や福祉系の団体等から要望等はなかったか。

（藤田部長）

　　特に要望等はなかったが，多目的施設の中には障がい者のための就労支援的な機能も併せ持つことから，共生社会のモデルとして進めて頂きたいと考えている。

（河村副会長）

１３ページの医療型短期入所について国立八雲病院が分離されて，国立函館病院の増改築等で対応する予定と聞いているが，その中で医療型短期入所については，どのような状況であるのか。

（齋藤課長）

正式な発表ではないが，国立八雲病院の閉鎖に伴い，受診患者約５７人が国立函館病院に移動してくる。病床は６０床，建設については最短で３２年度を予定していると聞いている。医療型短期入所についても何床かは準備すると聞いているが，全体において，まだ具体的な形にはなっていない。

（佐藤会長）

　　国立八雲病院の閉鎖について，反対運動が起きていると聞いたが，閉鎖については決定事項として進めて行くことになるのか。

（齋藤課長）

　　閉鎖については既に了承を得られており，決定事項として進められる。医療的ケア児の対応についても，本市の意向もくみ入れてくれたものと考えている。

（比森委員）

　　国立八雲病院は国立函館病院へ持って行くという話ではなかったか。

（齋藤課長）

　　重症心身障害児・者は国立函館病院の敷地内で，筋ジス患者は札幌である。

（佐藤会長）

　　「２　保健・医療」について１８ページから２９ページまで事務局から説明を願いたい。

（渡邊主査）

　（資料１「第２次函館市障がい者基本計画関連事業の主な取組状況等について」の該当部

　分を説明。）

（佐藤会長）

　　質問，意見はないか。

（比森委員）

２７ページの，はこだて療育・自立支援センターのリハビリ回数について，ＰＴ，ＯＴ，ＳＴがそれぞれ関わった回数なのか。

（渡邊主査）

　　はこだて療育・自立支援センターには，ＰＴ３名，ＯＴ２名，ＳＴ２名を配置しており，それぞれが実施したリハビリの回数の合計を掲載している。

（川村委員）

　　２７ページの，精神保健家族セミナーについて，２８年度は４回の５０人と記載があるが，４回の延べ人数が５０人ということでよろしいか。

（加藤課長）

その通りである。

（佐藤会長）

　　それでは「第２　自立と社会参加の促進」について事務局から説明を願いたい。

（渡邊主査）

　（資料１「第２次函館市障がい者基本計画関連事業の主な取組状況等について」の該当部

　分を説明。）

（佐藤会長）

　　慢性疾病児童等地域支援協議会は，北海道では函館市にしかなく，函館市が先進的に実施している。年に１回の協議会だが，人工呼吸器を着けた子どものことなど，悲惨な話がたくさん出るが，なかなかこれといった解決策が出ないのが現実である。

（佐藤会長）

　　質問，意見はないか。

（河村副会長）

　　市内には，特別支援級を教える資格がある先生は何割くらいいるのか。

（水野委員）

　　割合はおさえていない。免許を持ってない方も指導しているのが現実であるが，できるだけ免許を持っている方が指導するようにしている。

（島委員）

　　地域の学校へ通いたい子どもについて，特殊教育から特別支援教育に変わったことにより，特別支援学校に行かなければならない状況が増えて，特別支援学校の児童・生徒がかなり増加しており，国レベルでの対応が求められる。また，普通学校の先生方に対する研修にも力を入れていかなければならない。

（水野委員）

　　先生方の研修については，資料にもあるとおり毎年着実に実施している。

（佐藤会長）

　　平成３０年４月１日から障がい者雇用率が上がる。今回の改正は，精神障がい者の雇用を積極的に進めていこうというものであるが，５０人規模の職場での雇用率達成は厳しいものがあることから，障がい者雇用に関するメリットについて積極的の周知する必要がある。

（佐藤会長）

　　それでは「第３　バリアフリー社会の実現」について事務局から説明を願いたい。

（渡邉主査）

　（資料１「第２次函館市障がい者基本計画関連事業の主な取組状況等について」の該当部

　分を説明。）

（佐藤会長）

　　質問，意見はないか。

（廣畑委員）

　　１点目は，４８ページの市民後見人について，平成２８年度の市民後見人候補登録数は１７人となっているが，実働は何件あったのか。

２点目は，５３ページの道路不法占拠物の撤去について，市で実際に通報等により何件把握した内の指導，移動，撤去件数なのか。

３点目は，５７ページの障がい福祉のしおり発行について，各年度の発行部数が違う理由について知りたい。

（渡邉主査）

　　１点目，２点目については，資料に記載された情報以外に把握していない。障がい福祉のしおり発行部数について，資料には実際に業者に発注して作成した部数を掲載しており，不足があった場合は自前で作成したものを配布している。

（比森委員）

　　５５ページの防災対策について，災害時は先に自助，次に共助，次に公助となっている

と思うが，未だに先に公助のように誰かが助けに来るものだと思っている方もいるのではないか。今はすぐに駆けつけるということではなく，自分の身はある程度は自分で守ることが大事であることを市で周知しているのか。

（齋藤課長）

要援護者は登録されており，こちらから向かう体制となっているが，これに登録されていない方でも，障がいや，高齢，生活保護などの担当部局において援助が必要な方について，それぞれで把握しており，これらのもとへ向かうような体制を整える工夫を検討中である。

（佐藤会長）

　　災害時に公助が先に走るのは難しいと考えるが，東日本大震災時に要援護者のもとへ市の職員が真っ先に駆けつけたと聞いている。市民の命を守るためにどうしたらよいかは難しい問題だが，我々も自助について努力しなければならない。

（比森委員）

　　自分に余裕がなければ相手のところへ助けに行けないのが現実，公助が先に来て欲しいがそれも難しい，学校の統廃合により避難場所も減っている現状など，いろいろと課題はある。

（河村副会長）

　　障がい福祉のしおりの事業所一覧の部分で誤って掲載されているものがあるので，今　一度精査して，今後につなげて欲しい。

（齋藤課長）

　　障がい福祉のしおりについては，全てを網羅しようということで製作にかなりの時間　を要しており，できあがる頃には古い情報になってしまうという問題も起きている。今の形が良いのかということも含め，みなさんから意見を頂きより良いものを作っていきたい。

（大山委員）

　　５６ページの本会議傍聴者用手話通訳，要約筆記委託について，それぞれで伝達方法が違うので，実績を掲載する際には，どちらか明記するようにお願いしたい。

1. その他

（佐藤会長）

　　それでは協議事項（３）その他について，小呂野塾特別講演「障がいがあってももっと学びたい。～知的障がい児者にとっての学びとは～の開催案内。

（比森委員）

　　家族会の方に聞きたい。長年施設に入所していると，施設側が主となって，入所者からのクレームがあっても通用しないというような事例はないか。

（川村委員）

　　就労Ｂ型の事業所が増えている中で，障がい者に合わせた対応では無く，その事業所の都合に合わせた処遇になっているため，ついて行けずに，すぐに辞めてしまう方が多い。

利用者それぞれの障がいの内容をもっと理解した対応をして欲しいという意見が多く出ている。

（比森委員）

　　ストレートにクレームをつける家族に対しては，コミュニケーションをとり，クレームが出ないように対応する事業所もあるが，長期に利用している方など，なかなか意見を言えない場合もあるのではないか。

（川村委員）

　　障がい者は事業所を日中のよりどころとしているので，何か不満があっても家族に愚痴は言うが，事業所には言えず，我慢して通っているのが現状である。

（比森委員）

　　長期間施設にいると，このような問題が起き，未だ解決されていない現状があり，改善について大きな課題である。

（佐藤会長）

　　精神障がい者の日中支援について，悩みを抱えている事業所はたくさんある中で，家族会の果たす役割は大きくなっているので，積極的に意見を出していくことが重要である。

（川村委員）

　　３障がいの中で精神障がいが一番遅れているが，これからは色々と積極的に声を上げていく。現在は医療費助成について取り組んでいる。

（佐藤会長）

　　その他意見がなければ事務局にお渡しする。

（渡邉主査）

　　今年度最後の委員会になるので，保健福祉部長から挨拶を申し上げる。

（藤田部長）

　　挨拶

1. 閉会

（佐藤会長）

　　他に発言がなければ，本日の委員会を終了する。